



令和4年3月31日

令和3年度 東京都立田無工業高等学校  
学校経営報告

東京都立田無工業高等学校  
校長 岡谷 典幸

1 令和3年度学校経営計画の実施状況（概要）

本校は、東京都教育委員会よりデュアルシステム導入校の指定を受け、活動内容の充実と実施体制の整備を図るとともに、以下の項目毎に活動内容を設定し学校経営を行った。

- (1) 様々な経験を積ませることで役に立つ一人前の人間に育て上げ、社会人としての資質と規範意識を育む。
- (2) 基礎的・基本的な学力を身に付けさせるとともに、自己の将来を見据え努力する社会人を育成する。
- (3) 心身における健康維持の重要性を理解し、適切に自らの健康管理ができる社会人を育成する。
- (4) 工業に関する知識や技能・技術を身に付けさせるとともに、専門性を有し社会に貢献する技術者を育成する。
- (5) 工業教育の充実を図り、工業技術者の裾野を広げる。デュアルシステムは本校独自の体制を構築し、長期就業訓練の派遣にあたっては、生徒の希望とのマッチングを図り、参加率向上を目指す。

2 今年度の取組と自己評価

新型コロナウイルス感染症対策の影響により計画通りの取組が出来ず、計画の中止や順延、内容変更した教育活動が生じた。一方で、分散登校や時差登校等を実施しつつ、双方向によるオンライン授業の実施等により、コロナ禍であっても教育を止めない取組を推進することができた。

(1) 教育活動への取組と自己評価

取組目標	具体的取組(方策・目標)	成果と課題
学校経営 組織体制 の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>①公開講座、施設開放、出前授業などにより教育機能を広く公開し都民サービスに貢献する。</li> <li>②関係機関及び地域と連携したボランティア活動の取り組みを一層充実させ、社会貢献と豊かな心を育む。</li> <li>③「生徒による授業評価」による校内研修の実施、教職員の相互の授業観察を促進するなどして指導方法や指導内容の工夫・改善、指導計画の見直しを図り、授業力向上に努める。</li> <li>④学校経営計画の実現に向け、企画調整会議、主幹会議、職員会議、各種委員会の運営を促進する。</li> <li>⑤個人情報の安全管理に関する基準を遵守し、個人情報の保護・管理を徹底する。</li> <li>⑥保健相談部、特別支援コーディネーターを中心に関係機関と連携し、組織的な特別支援教育を推進する。</li> <li>⑦ものづくりを通じた障害者・高齢者への理解教育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新型コロナ感染症対策の為、公開講座は中止となり、出前授業も計画通りに実施することが出来なかった。</li> <li>② 「わくわくどきどき夏休み工作教室」は中止となったが、西東京市との地域連携活動の準備を進めた。</li> <li>③ ICT機器を活用した授業評価を実施し、詳細の分析結果を基に授業改善への取り組みを行った。</li> <li>④ 感染症対策としてオンライン会議も採用しながら、各種会議を実施し組織的な運営に取り組んだ。</li> <li>⑤ 日常的な注意喚起の継続および校内研修会を開催し、事例研究等を通じて個人情報の保護・管理に取り組んだ。</li> <li>⑥ 情報共有会を年間5回開催し、SCや心理士の助言を受けながら対応にあたった。</li> <li>⑦ 田無特別支援学校との協働作業は実施できた。【C】</li> </ul>

<p>学習指導の充実</p>	<p>①各教科は、年間授業計画の確実な実施に向け、週ごとの指導計画を作成して生徒理解度を把握し、適切な対応を行う。</p> <p>②授業規律を確立し、わかり易く・丁寧な授業を行い、基礎・基本を確実に身に付けさせる。</p> <p>③日々の授業において、定期テスト・小テスト・提出物を計画的に実施し、生徒の学習状況を把握するとともに、組織的指導を行う。</p> <p>④「生徒による授業評価」や校内研修の実施、教員相互授業観察を促進するなど、指導方法の工夫や改善を図り授業力向上を図る。</p> <p>⑤教員の授業力を高め、デジタル技術を活用した教育の推進に取り組む</p> <p>⑥田無工業高校技能スタンダードを通して、本校で身に付けさせる専門性と学習段階を明確にし、組織的な指導を展開する。</p> <p>⑦グローバル社会に対応した人材の育成のため東京グローバル・ゲートウェイなどを活用し、英語教育の充実を図る。</p> <p>⑧学習意欲の向上をさらに図るために、資格取得・検定合格・コンクール入賞などに向けた指導を充実させる。</p> <p>⑨基礎体力の向上を図るとともに、東京都統一「体力テスト」を実施する。</p> <p>⑩読書活動を推進し、生徒の未読率の低減を図る。</p> <p>⑪学力向上推進校としての対応を図る。</p> <p>⑫ものづくりを通じた障害者・高齢者への理解教育を教育課程に位置づけ、推進する。</p>	<p>① 各教科は指導計画に基づき授業を実施し学習への取組状況から生徒の理解度を把握、必要に応じ課題や補習・補講を実施した。</p> <p>② 授業規律週間を学期毎に設け、授業に集中できる環境づくりに取り組んだ、また習熟度別授業等により、生徒の学力に応じたわかりやすく丁寧な授業を実践した。</p> <p>③ 年間を通じた学習状況把握で組織的な指導に取り組みで成果をあげたが、成績不良により進級できない生徒1名となった。</p> <p>④ 生徒による授業評価はICTを活用して実施し細かな分析もを行い、授業者へのフィードバックを行い授業改善に繋がった。</p> <p>⑤ 教員全体のICT活用能力推進に取り組む、ほぼ全ての教科で双方向のオンライン授業を実施可能になった。</p> <p>⑥ 技能スタンダードを実施し、生徒の専門科目に対する理解度を把握することができ、授業改善に繋げることができた。</p> <p>⑦ 東京グローバル・ゲートウェイを活用した授業は新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。</p> <p>⑧ 年間通じて各種取得資格に向けた補習・補講を行ったが感染症対策で補習補講が行えなかった期間に実施されて検定では合格者数の減少となった。</p> <p>⑨ 体力テストは感染症対策を行い実施した。</p> <p>⑩ 課題図書の設定など未読率の減少に取り組んだ。</p> <p>⑪ 外部人材を活用し、通年で対応にあたり、学力不振者への働きかけに取り組んだ。</p> <p>⑫ 田無特別支援学校との協働作業は実施できた。 【B】</p>
<p>生活指導の充実</p>	<p>①身だしなみ（髪型・服装）指導や全体集会・学年集会などを実施し、地域から信頼される態度・行動・言動ができるよう指導する。</p> <p>②学級担任を中心として生徒の実態を適切に把握し相談活動を行い、生活環境を整える。</p> <p>③いじめや暴力を許さない環境を作る。</p> <p>④教職員自ら挨拶を行い、明るく楽しい学校の雰囲気づくりに努め、生徒の健全育成及び欠席・遅刻・早退の減少にチーム田無工で取り組む</p> <p>⑤「ものづくり人材育成プログラム推進校」として、講演会・講習会をとおしてものづくり人材の育成を推進する。</p>	<p>① 授業規律週間を学期に1回実施し、生徒の学習態度の改善につながった。</p> <p>② 学級担任による相談機能充実のため、情報交換会の情報を活用し適切に外部連携を行い、生活環境改善に取り組んだ。</p> <p>③ いじめの疑いがある場合、アンケート調査（年3回）や聞き取り調査を実施し、指導の徹底を図ることで、再発防止してきた。</p> <p>④ コロナ感染予防のための欠席や起立性障害の生徒の増加により、目標値を達成できなかった。</p> <p>⑤ ものづくり立志事業や特定分野推進校の取組みによりキャリア教育推進やものづくり人材育成に取り組むことができた 【B】</p>
<p>進路指導の充実とキャリア教育の推進</p>	<p>①キャリア教育の全体計画に基づき、生徒の実態に応じたきめ細かな進路相談・進路指導を行い、生徒の進路希望の実現を達成する。</p> <p>②地域の関係する諸団体や地元企業と連携し、デュアルシステムの充実を図る。また、デュアルシステムの参加者をさらに増やし、望ましい勤</p>	<p>① 就職一次内定率70%を超え、3月末時点での進路未決定者は1名のみとなった。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症の影響でデュアルシステムⅠ期は中止としたが、代替としてⅡ期は71名参加、Ⅲ期は36名が参加予定 通常と異なる時期の派遣によりキャリア教</p>

	<p>労観・職業観を育み、自らが進路選択できる力を身に付けさせる。</p> <p>③コミュニケーション能力の伸長を図り、社会人としての資質を育て、進路実現につなげる。</p> <p>④進路実現を支援するために、指導・補習などを組織的・計画的に行い、第一志望の大学・企業等へ導く。</p>	<p>育全体での悪影響が懸念される。</p> <p>③ 進路講演会等の取組は計画とおりに実施することができた。よって、生徒の進路意識の向上につなげることができた。</p> <p>④ 学級担任・進路指導部・学科の協力により進路実現のための指導を組織的に実施した。</p> <p style="text-align: right;">【C】</p>
健康・安全 特別支援教育 の推進	<p>①学級担任・教科担当・養護教諭は互いに連携し、SCを活用して、教育相談活動を充実させる。</p> <p>②学校保健計画に基づく学校保健の取り組み、保健相談部を中心として、心身の健康及び体力保持増進について自ら考え行動できる力の育成を目指し、安心できる学校生活及び事故防止、健康的な生活習慣の確保を図る。</p> <p>③安全教育・防災教育の充実と突発的な事故や救急対応が必要な場合の校内体制の確立を図る。</p> <p>④教科「人間と社会」では、防災技術講習会等を実施し、地域防災の担い手としての意識を育む。</p>	<p>① 担任・教科担当・養護教諭・SC・心理士との連携や教育相談活動は充実し特別支援教育や生徒の心身の健康維持を図れた。</p> <p>② 健康教室等、学校保健の取組を計画通りに実施し、安心できる学校環境づくりに取り組んだが、新型コロナの影響による変則的な分散登校や時差登校等で生活習慣が整わず遅刻や欠席の多い生徒も出てしまった。</p> <p>③ 突発的な事故や救急対応については校内体制が整い適切に対応できた。</p> <p>④ 水道局との連携で災害時の給水所体験を実施した。</p> <p style="text-align: right;">【C】</p>
防災教育 の推進	<p>① 1学年全員が上級救命士資格を取得できるよう講習会を開催する。</p> <p>② 地域の防災訓練等への参加</p> <p>③ 校内の防災活動の充実</p>	<p>① 田無消防署協力で、1学年全員に上級救命救急講習を受講させた。</p> <p>② 新型コロナ感染症の影響により地域の避難所設営の防災活動は中止となった。</p> <p>③ 年4回の避難訓練を実施した</p> <p style="text-align: right;">【B】</p>
募集・広報活動・ の充実	<p>①学校説明会、学校見学会、一日体験授業、部活動体験、年間を通じた授業見学などにより、本校の特色ある教育活動を校外に周知する広報活動を推進する。</p> <p>②ホームページの更新やSNSによる配信を活用し、生徒の活動状況を積極的に情報発信し、生徒・保護者・地域へ提供する。</p> <p>③全教職員による中学校訪問及び広報活動を行い、本校の特色や期待する生徒像を広く都民にアピールし応募を促進する。</p>	<p>① 新型コロナ感染症の影響により、中止や人数制限はあったが、代替としてのミニ見学会や田無チャンネルの開設などを実施し広報活動の充実に取り組んだ。</p> <p>② ホームページは年間1172回更新実施し教育活動の積極的な提供を行った。</p> <p>③ 新型コロナ感染症の影響により、中学校訪問は当初予定の学校数は実施できなかったが、さんだる相談会への参加などで本校の特色のアピールを実施した。</p> <p style="text-align: right;">【A】</p>
特別活動等 の充実	<p>①全体集会、学年集会、ホームルーム活動をおして、帰属意識を高めるとともに、集団生活への適応を図る。</p> <p>②学校行事、ホームルーム活動、委員会活動を通して、自主性・協調性を養わせる。</p> <p>③部活動への参加率を高め、公式試合などを通して積極的に挑戦する気持ち、達成感を持たせる。</p> <p>④学校全体で組織的・計画的に展開し、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。</p>	<p>① 田無工五輪（体育祭）、文化祭（田無工祭）は新型コロナの影響がありながらも開催方法を工夫して実施できた。</p> <p>② 学校説明会等では、生徒会、部活動生徒による案内などの手伝いにより来校者から評判が良かった。</p> <p>③ 測量部のものづくりコンテスト関東大会出場やサッカー部工業高校大会優勝等の成果があった。</p> <p>④ マラソン大会は新型コロナ感染症の影響により中止となったが、これまでの取組が次年度以降もTOKYO2020レガシーとしてオリパラ教育は推進する。【B】</p>

経営企画室における経営参画の推進	① 学校経営計画の実現に向け、経営企画室の業務の充実を一層図るとともに、迅速な対応を行う。 ② 自律経営推進予算は、計画的に執行し、センター執行割合の一層の向上を図る。 ③ 省エネ、経費削減に向けて取り組みつつ、教育環境の充実を図る。	① 業務連絡を密にとりながら、学校経営実現に向けて協力体制を構築した。 ② ウッドショック等により学校契約購入物品の価格が急上昇しセンター執行率を向上させることが出来なかった。 ③ 新型コロナウイルス感染症対策により常時換気を実施したため光熱費を抑える事が出来なかった。【C】
ライフワークバランスの推進	① 年間を通じて計画的な年休取得を推進する。(10日以上年休取得) ② 閉庁日を設け、職員の休養を図る。(年間5日間) ③ 週1回のノー残業デーを各自設定し、効率の良い業務処理を目指す。	① 計画的な年休取得はほぼ全員の教員が実施した。 ② 閉庁日は年間5日実施し、職員の休養を図った。 ③ 校務の関係から週1回のノー残業デーの設定が出来ず、各自の努力目標としたが、新型コロナウイルス対応の授業準備等、業務が増大したため浸透には至らなかった。【C】

A：大きな成果が得られた B：昨年度より前進した C：昨年度並み D：取組や成果に課題が残る

## (2) 重点目標への取組と自己評価【B】

- ① 一般入試倍率については今年度1.1倍以上を数値目標に取組を進めたが、推薦入試の比率が40%に上がったことの影響もあり、結果は0.86倍であった。最終的に3学科の中では機械科が定員を満たすことが出来なかった。今年度は生徒へのきめ細かな学習指導・進路指導により、在校生・保護者からの評価を高める事と、学校広報活動を幅広く展開し、中学生や保護者の興味関心を高めさせる計画であったが、各種の広報活動が新型コロナウイルス感染症により、中止や延期、人数制限があり、直接的なアピールの機会が減少したことも倍率低下に影響した。次年度は新型コロナウイルス感染症による影響も少ない時期に迅速に募集活動に対応できる体制づくりと、ホームページ等情報提供のさらなる充実、中学校教員向けの広報活動の充実に取り組みたい。
- ② 中途退学率については3名を目標に取り組みを進めた結果、今年度は3名のみとなり、目標は達成した。また、転学した生徒も減少した。原因として、全教職員が生徒一人一人に対して丁寧な指導、わかりやすい授業、学習活動において理解不足の生徒への補習などを行った結果である。
- ③ 進路未決定率については、卒業後の活動を予定している生徒1名を除き、目標は達成した。

## 3 次年度以降の課題と対応策

- (1) 学習指導の充実と学力向上については、日常の学習支援が必要な生徒の増加傾向がつついていするため、学力向上研究校の取組とともに、全ての教科での補習の充実や学び直し対策を行う。具体的には学習活動や学習支援を担任と教科担当が情報を共有し、放課後や長期休業中の補講など活用し学習の不足を補うなどの活動を展開する。学力向上については、基礎学力テストの結果や学力・技能スタンダードを活用する。また、新型コロナウイルス感染症対策として双方向でのオンライン教育を柔軟に対応や生徒一人1台端末を活用できるよう、学習教材の充実に取り組む。また学習指導要領の改訂に伴う観点別評価の実施に際し、指導と評価の一体化を推進する。
- (2) 生活指導については、日頃より頭髪・服装指導などを徹底し授業規律の乱れの防止を図る。具体的には、朝の立ち番指導や授業規律週間など設定し、組織的な対応を行う。次年度も授業規

律週間などの具体的な指導を明らかにし、生活指導部と教科・学年との連携を図り、組織的な指導体制を構築する。

- (3) 進路指導の充実とキャリア教育、デュアルシステムの推進については、進路指導部の教員を中心に学級担任や工業各科の全教職員の協力体制で取り組んでいく。4年制大学進学希望者は、わずかであるが手厚く指導し、さらに進学後の状況を踏まえ学習指導する。
- キャリア教育は来年度もデュアルシステムを中心とした計画を行うが、参加希望者・受け入れ企業の増加に加えて、新型コロナウイルス感染症対応による長期就業訓練派遣関係業務が増大し、制度の改善と実施体制を整備していく必要がある。次年度も長期就業訓練への延べ参加者の割合を第Ⅰ期、第Ⅱ期合計で70%に設定し、協力企業と連携を強化し推進していく。
- (4) 健康・安全と特別支援教育の推進については、毎週水曜日に年間38回のSC相談を実施した。相談件数は、生徒34件、保護者5件、教員104件 計143件であった。今年度も保健相談部、SC、外部機関等と保護者との連携が比較的うまく取れ、学校側の情報の共通認識の形成や組織的な対応もできた。次年度SCとの全員面接の実施などを有効に活用し、学校と家庭との連携を強化し、保健相談部、学年などによる情報交換会や担当者会議の活性化を図り、学習支援の体制をさらに強化していく。
- (5) 広報活動の充実については、募集対策を中心に据え、応募倍率の回復に努める。募集対策は、来年度もHPやSNSを通じて学校生活の様子を積極的に発信する。また、学校見学会、学校説明会、出前授業、ものづく教室、中学校訪問、出張学校説明会などの他、ミニ見学会、部活動公開日、中学校教員向け説明の新規事業を追加し、本校の良さをアピールしていく。また、専門学科に対する理解の促進を図る必要があることから、工業高校戦略プロジェクトの取組に基づき、先端技術を利用した教育活動、課題解決型学習の充実、地域連携の強化に取り組む。また、スクールミッションの設定や教育課程の改定に伴い、学校パンフレットは全面改訂し本校のイメージをさらに高める